

V. その他（代表理事 杉尾 哲）

1. 「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」を運営しました

この研究会は、宮崎県との協働事業として実施していて、本団体が事務局を務めています。河川等に関係する行政や企業の技術者に対する多自然川づくりの人材育成として、水辺の工法研修会、川づくりコンペ、身近な水辺のモニター報告会、現地研修会などを開催している。特に本年度は、各地で激甚な災害が頻発していることを受けて、宮崎県内においても防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に集中的に取り組んでいることから、現場研修会を年度当初に開催した。

●水辺の工法研修会の開催

本年度の第2回研修会は、8月6日(火)と7日(水)に予定していたところ、台風8号が接近したため、開始以来で初めて延期して開催した。



1) 令和1年度 第1回研修会

実施日 6月17日(月) 会場：JAアズムホール

6月18日(火) 会場：日向市中央公民館

講師1 宮崎大学工学部 糠澤 桂 氏

題名 環境に配慮した河川整備のための河川健全性評価の事例紹介

講師2 遠賀川河川事務所 野呂健志 氏

題名 遠賀川における生態系ネットワーク形成の推進について

両会場の合計参加者数：行政43名、民間582名

2) 令和1年度 第3回研修会

実施日 11月11日(月) 会場：JAアズムホール

11月12日(火) 会場：日向市中央公民館

講師1 九州大学工学研究院 佐藤辰郎 氏

題名 地質と川の個性-研究から神代川かわまちづくりへ-

講師2 国土技術政策総合研究所 福島雅紀 氏

題名 維持管理を見据えた河道の設計・施工について

両会場の合計参加者数：行政31名、民間479名



3) 令和1年度 第2回研修会

実施日 12月19日(木) 会場：日向市中央公民館

12月20日(金) 会場：JAアズムホール

講師1 菊池川河川事務所 調査課 東 高德 氏

題名 菊池川における再堆積抑制の取り組み

講師2 熊本大学先端科学研究部 皆川 朋子 氏

題名 ダム下流河川で生じている課題と改善策について

両会場の合計参加者数：行政42名、民間394名



●水辺の工法現場研修会の開催

現場研修会は、これまで河川担当の行政職員を対象として開催していたが、本年度は防災・減災、

国土強靱化のための3か年緊急対策の現場における多自然川づくりの考え方の知見と技術の習得を目的として、行政職員と企業技術者を対象として年度当初に開催した。

実施日 5月10日(金) 会場：宮崎県建設技術センター

講師 九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏

題名 樹木伐採・河床掘削における留意点や適切な方法等について

参加者数：行政14名、民間46名



●身近な水辺のモニター担当者研修会の開催

各土木事務所で河川モニターと実施する五感による水辺調査とHEIチェックシートによる河川環境調査について、実施方法を解説して、屋外で実習を行った。

実施日 5月28日(火)

会場 西部地区農村環境改善センター・本庄川

参加者数 県河川課と土木事務所 18名



●うるおいのある川づくりコンペの開催

「私たちがめざすうるおいのある川や水辺はどんな姿なのか」について、河川で活動する企業・行政に呼びかけて開催した。今年も、審査の結果、河川課の「宮崎県における自然豊かな川づくりのための人材育成」が金賞、日南土木事務所の「地域連携や協働による多自然川づくりの実践」が銀賞を受賞して、この2件が宮崎県の代表として九州川づくりコンペの発表課題に選出された。この他に、延岡河川国道事務所の「五ヶ瀬川かわまちづくりの取り組みについて」が銀賞、西臼杵支庁の「河道埋塞による浸水被害対策」と小林土木事務所の「オオヨドガワゴロモ保全活動について」および西都土木事務所の「三財川での大聖牛工法による多様で複雑な景観への変化」が銅賞を受賞した。

実施日 7月31日(水)

会場 宮崎県企業局県電ホール

発表団体数 14団体、参加者数 56名



●身近な水辺のモニター報告会の開催

県内各地の土木事務所で地域住民の方々をお願いしている水辺のモニターの意見を今後の川づくりに反映させるために、調査の成果を報告し、いろいろな情報交換を行った。

実施日 令和2年2月13日(木)

会場 企業局県電ホール

発表団体数 12団体、参加者数 72名

以上の宮崎県との協働事業は、多自然川づくりのための人材育成として機能している。この点が12月16日～17日に“さいたま新都心合同庁舎”で開催された令和元年度全国多自然川づくり会議において本県河川課の発表が高く評価されて、第4分科会の優秀事例として選出され表彰された。

これは、平成 29 年度の神代川の再生と平成 30 年度の耳川水系総合土砂管理に続く 3 年連続の選出である。これに満足することなく、次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後もさらに充実させて実施すべきであると評価します。

2. 河川協力団体として活動しました

本団体は、大淀川流域の河川協力団体として活動している。その活動として、宮崎河川国道事務所と住民団体との連携・協働、防災や環境情報の収集、河川に対する住民の理解の促進を図るために、下記の業務を行った。

●みやざき川づくり交流会の運営補佐

宮崎河川国道事務所が平成 25 年度に立ち上げた「みやざき川づくり交流会」の運営を補佐している。今年度は、これまで年 2 回開催していた交流会を年 1 回に集約して開催され、現地見学として大淀川学習館前の水辺の楽校の植生管理を見学した。

開催日 12 月 17 日 (火) 14:00~17:00

場 所 会議：宮崎河川国道事務所 1 階大会議室

参加団体 14 団体

綾町カナディンウッド綾漕会、生き生き河童の会、大塚地域まちづくり推進委員会環境部会、NPO 法人大淀川流域ネットワーク、小丸川ボランティアグループ、自然塾「楽園里山」、(有)しゃくなげの森、高鍋自然愛好会、NPO 法人どんぐり 1000 年の森をつくる会、みずがめフォーラム、NPO 法人都城大淀川サミット、OMZK、山崎川をきれいにする会、安川クリーン会 (50 音順)

内 容

1. 現地見学(大淀川学習館前の水辺の楽校)
2. 開会の挨拶
3. 参加団体及び行政機関の紹介
4. 前回のおさらい
5. 各種討議・意見交換等 ①各団体の活動紹介、②国土交通省からのお知らせ、③宮崎県からののお知らせ、④各団体からののお知らせ及び意見交換
6. 閉会

●河川利活用事例収集、簡易水質調査の実施補助

みやざき川づくり交流会に参加している各団体の活動状況の情報収集と、宮崎河川国道事務所が小戸小学校 4 年生を対象に大淀川と本庄川の合流部で実施した水生生物調査において安全管理補助を行った。

水生生物調査実施日 9 月 18 日 (水) 場所 柳瀬橋下流

利活用事例収集実施日 6 月~12 月 収集团体数 22 団体

●九州河川協力団体講習会(研修)に出席

九州河川協力団体連絡会議が開催する次世代人材育成の講習会に当団体から池辺理事が出席して、



二日間にわたって九州の河川や防災、協力団体の役割、流域連携のあり方などについて学んだ。

開催日 令和2年1月18日(土)～19日(日)

会場 久留米リサーチ・パーク

●九州河川協力団体連絡会議の宮崎圏域会議に出席

宮崎圏域の4団体と九州河川協力団体連絡会議の役員が、次世代の育成や流域連合体の形成などの取組みについて協議し、国土交通省と意見交換した。なお、九州河川協力団体連絡会議全体会は令和2年2月28日に福岡市において開催される予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って延期された。

開催日 11月28日(月)

会場 延岡河川国道事務所

宮崎圏域の参加団体 NPO 法人大淀川流域ネットワーク、NPO 法人都城大淀川サミット、NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク、NPO 法人 コノハナロード延岡市民応援隊

3. 全国川サミット in 宮崎で講演しました

全国川サミットは、一級河川の流域内の自治体体同士の交流を通して、川の環境などの理解を深め、その普及啓発を目的に平成4年度から毎年持ち回りで開催されています。今回は宮崎市が担当して、第1日に首長による意見交換、第2日に子ども達の環境学習の成果発表と基調講演が行われた。今回のテーマは「母なる川と ともに」であり、第2日目の子ども達の環境学習の成果発表と基調講演を依頼され、本団体の活動を紹介した。

開催日 令和2年1月25日(土)

会場 宮崎市民プラザ オルブライトホール

講演題目 生態系サービスを理解する



河川協力団体として活動は、九州内の河川協力団体および県内の環境団体との連携を深めるとともに、国土交通省との相互理解を深め、本団体の活動を連携して推進するのに極めて重要である。また、全国川サミット in 宮崎の講演は、環境活動に熱心な自治体が参加していて、本団体の活動を全国に紹介するのに貴重な機会になった。これらは、今後も積極的に継続すべき取り組みであると評価します。